

曹洞宗総合研究センター 第21回学術大会 プログラム

開催日 令和元年11月25日(月)～26日(火)

会場 曹洞宗檀信徒会館(東京グランドホテル)

3階桜の間(第1部会)

蘭の間(第2部会)

菊の間(第3部会)

大会日程

- 11月25日 9時30分より 開会式(桜の間)
10時00分より [午前の部] 個人発表、シンポジウム
13時00分より [午後の部] シンポジウム
- 11月26日 10時00分より [午前の部] 個人発表
13時00分より [午後の部] パネル発表、個人発表

曹洞宗総合研究センター発足20周年記念シンポジウム

食～禅に学ぶ～

曹洞宗総合研究センターの発足20周年記念シンポジウムとして「食～禅に学ぶ～」を開催します。

「禅の食」の根源は、仏教が2500年を超える歴史の中で積み重ねてきた「生命との向き合い方」に他なりません。食べることは生きること。今、未来につながる「食＝生命との向き合い方」が問われています。本シンポジウムにてさまざまな角度から考えてみたいと思います。

Section1 曹洞宗と食：『典座教訓』を中心として

- | | |
|--|-------|
| 1、中国における典座の成立について | 小早川浩大 |
| 2、文亀本『典座教訓』について | 角田 隆真 |
| 3、『典座教訓』の出典註釈研究における成果 | 新井 一光 |
| 4、道元禅師在世当時における食の諸相 | 永井 賢隆 |
| 5、道元禅師以降の『典座教訓』の伝播と受容
—中世・瑩山禅師より近代・戦前期にかけて— | 秋津 秀彰 |
| 6、戦後から現代における『典座教訓』の展開 | 澤城 邦生 |

Section2 曹洞禅×SDGs—食の未来—

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1、SDGsの現在 | 清野 宏道 |
| 2、現代日本における食の実態 | 久保田永俊 |
| 3、海外の禅センターにおける食 | 南原 一貴 |
| 4、曹洞禅から考える精進料理の可能性 | 久保田智照・西田稔光・深澤亮道 |

<第1日> 11月25日

第1部会 <桜の間>シンポジウム

午前の部(10時00分～12時00分)

島々の信仰～離島から考える寺院の今後～

総合研究センター発行『kuu:』vol.7』では、「島々の信仰」を特集テーマとしました。現地取材においては、過疎化による産業の衰退や人口減少、少子高齢化が深刻な離島において、寺院の維持管理や家庭における信仰の継承などの課題に取り組む宗教者の姿を目の当たりにしました。こうした状況は、今後、わが国の多くの地域において起こりうるものと推察します。そこで、本シンポジウムでは、取材で得た知見をふまえながら、寺院の今後のありかたについて考えてみたいと思います。

○離島の現状と文化

三木剛志 (財団法人日本離島センター広報課長)

○僧俗官民が一体となる、宗教者と離島振興のいま

横山俊顕 (センター委託研究員)

○離島における信仰の継承とその課題

関水博道 (センター専任研究員)

○コメント

中俣 均 (法政大学教授)

午後の部 (13時00分～17時00分)

曹洞宗総合研究センター発足20周年記念シンポジウム

※ 詳細は前頁参照

第2部会<蘭の間>個人発表

午前の部 (10時00分～12時00分)

- | | | |
|------------------------------------|------------------|------|
| 1. 仏教典籍における「自然」「国土」の位置づけについて | センター専任研究員 | 宮地清彦 |
| 2. 大本山總持寺祖院蔵「分離独立運動関係史料」の紹介 | センター講師 | 尾崎正善 |
| 3. 中国天台における「業」—智顛の禅観を中心に | 愛知学院大学専任講師 | 大松久規 |
| 4. 樹神の観想『伝光録』と『洞谷記』のあいだ | 鶴見大学仏教文化研究所特任研究員 | 横山龍顯 |
| 5. 建綱と建擲の関係 (13) —永平寺旧塔頭長寿院の開山に就いて | | |
| | 岩手県正洞寺住職 | 熊谷忠興 |
| 6. 幼児教育 (保育) における身心一如の意味 | 育英短期大学教授 | 佐藤達全 |

※ 第2部会午後の発表はありません

<第2日> 11月26日

第1部会<桜の間>個人発表、パネル発表

午前の部（10時00分～12時00分）

1. 『永平寺前住牒』の書誌学的検討 永平寺学術事業推進室主任調査研究員 長谷川幸一
2. 『夢窩梅峰禅師語録』所収「退休寺記」に見る源翁心昭（3）
駒澤大学仏教経済研究所研究員 上野徳親
3. 『伝光録』にみる出家の解釈（2）—第26章と第42章を通して
駒澤大学大学院修了 下条正
センター研究員 秋津秀彰
4. 永平寺所蔵『弁道話』写本について センター特別研究員 清藤久嗣
5. 『正法眼蔵諫蠹録』（「坐禅箴」巻）について 臨済宗妙心寺派教化センター布教研究委員会委員長 和田牧生
6. 坐禅会実施寺院のアンケートから見たもの

午後の部（13時00分～17時00分）

パネル発表（13時00分～15時00分）

『岐路に立つ仏教寺院』

2015年の曹洞宗宗勢総合調査の結果を基に分析を深めた論文集『岐路に立つ仏教寺院』（法蔵館、2019年6月刊）の概要を紹介する特集パネルです。本パネルでは、本書の各章で明らかにされた寺院の現状と今後に関する分析を紹介し、意見交換も行ないます。これを通して、宗勢調査が教団の教化推進に不可欠な基礎資料であることを確認し、寺院存続のための議論を深める糸口としたいと考えています。

1. 「宗勢調査からみる寺院の概況」
相澤秀生（跡見学園女子大学兼任講師）
2. 「宗勢調査からみる兼務寺院・無住寺院の実態」
平子泰弘（曹洞宗総合研究センター委託研究員）
3. 「宗勢調査からみる寺院と墓地の現在」
問芝志保（日本学術振興会特別研究員）
4. 「宗勢調査からみる寺院の経済事情」
梶龍輔（宗教情報リサーチセンター研究員）
5. 「宗勢調査からみる過疎地寺院の現状と課題—神社界との比較から」
冬月律（モラロジー研究所主任研究員）

個人発表（15時00分～17時00分）

1. 曹洞禅の「食」による教化の可能性—精進料理の捉え方を考える センター研究生 西田稔光
2. 曹洞宗が目指す世界—SDGsへの取り組み センター副主任研究員 南原一貴
3. 地域社会における寺院のあり方を考える—過疎問題対策の視点から
センター研究生 久保田智照
4. 曹洞宗の「教義」と、SDGsへの取り組みの意味と意義 センター専任研究員 宇野全智
5. 差別言動の罪と罰—律蔵における悪罵と叱責 曹洞宗人権擁護推進本部嘱託員 工藤英勝
6. いす坐禅指導法の考察 センター主任研究員 小杉瑞穂

<第2日> 11月26日

第2部会 <蘭の間>個人発表

午前の部(10時00分~12時00分)

1. 日泰寺仏舎利考—堀内文次郎にとっての仏舎利奉安塔 センター副主任研究員 古山健一
2. 堀田土佐守正貴の銘のある狛犬と龍潭寺・斎宮社の関係 愛知県龍潭寺住職 別府良孝
3. 頼瑜の禅宗理解再考—『真俗雑記問答鈔』を中心に 駒澤大学仏教経済研究所研究員 千葉正
4. 中国禅門における〈業〉の観念
臨済宗妙心寺派教化センター教学研究委員会委員長 本多道隆
5. 「威儀即仏法」の伝統形成について センター専任研究員 石原成明
6. 長蘆宗蹟の「仏性」上堂について センター講師 山本元隆

午後の部(13時00分~17時00分)

1. 寺族モデルの変遷について 女性と仏教・関東ネットワーク 瀬野美佐
2. マインドフルネスとは何か(2)—心理学の世界を中心に センター研究生 田中仁秀
3. 新宗教の経典に学ぶ センター特別研究員 丸山劫外
4. 近世曹洞宗の檀林について 駒澤大学大学院 中野何必
5. 輪住帳にみえる「借住」文言について 駒澤大学文学部非常勤講師 遠藤廣昭
6. 曹洞宗における頂相について 曹洞宗文化財調査委員会主事 伊藤良久
7. 『正法眼蔵』「三界唯心」巻における仏身論 センター研究員 新井一光
8. 道元禅師の初期思想の形成について センター委託研究員 菅原研州
9. 曹洞宗の嗣法と自誓自戒について 駒澤大学部仏教学部非常勤講師 廣瀬良文
10. 正信論争考(16)—木村泰賢博士と和辻哲郎博士 山口県龍昌寺住職 竹林史博
11. 無本覚心の在宋中の動向について 駒澤大学仏教学部教授 佐藤秀孝
12. 象鼻の掛け方と象鼻衣について 愛知学院大学名誉教授 川口高風

<第2日> 11月26日

第3部会 <菊の間>個人発表

午後の部(13時00分~15時00分)

1. 仏教保育実践の提唱する「建学の精神」に関する一考察
駒澤女子短期大学専任講師 岡本啓宏
2. ゲームによる布教活動の考察—他宗派寺院での実践を参考に センター研修生 山本龍彦
3. 葬儀の生前契約における寺院の役割の一考察—行政との比較より センター研修生 久松彰彦
4. 芸術と教化の相互補完性について—地方芸術祭における事例を中心に
センター研修生 山内弾正
5. 英語の詩による布教—相田みつをの詩を用いて センター研修生 武井広機
6. 僧侶派遣・紹介の現状と宗門の問題 株式会社 Yuni 取締役 尾山恒道

※プログラムは変更になる場合があります。